

「出題の意図」

選抜区分	2025年度（選抜区分：一般選抜前期日程） 法学部 法律学科及び政策科学科（科目名：小論文）
出題の意図 （評価のポイント）	1 課題文選択の背景 出典は、御田寺圭『ただしさに殺されないために——声なき者への社会論』（大和書房、2022年5月）である。本書は、文筆家である筆者が、現代社会において本当は何が起きているのかを明らかにすることを目指し、「美しく輝き、人びとの心を打つ物語の陰で、だれからも見向きもされず、埃をかぶって、ときに腐敗していたものをつむいで、紙面に浮かび上がらせ」（330頁）、社会から全く歓迎されないことを覚悟のうえで30篇にまとめたものである。本問では、自由と道徳について考察する第3章の中の「3 健やかで不自由な世界」から出題した。 課題文で筆者は、牛肉回避の動きを皮切りに、食肉文化を見なおす機運から議論を始める。筆者曰く、人類が急速に進行する気候変動に直面し、それへの具体的対策の提示が必要となったことで、食肉を忌避するヴィーガニズムが進歩的で道徳的な人間としての具体的実践であると考えられるようになった。2020年代の新型コロナ・パンデミックによって、社会秩序維持のために健康であることを個人が目指すべき規範と考える傾向が生まれた。これまで、食肉や健康は個人の幸福の問題とされ、それらを求める行動は基本的人権と考えられていた。しかし、2020年代は、社会的・政治的に望ましいものにだけ、その営みを楽しんでよい自由が保障され、個人の自由が制限される時代となってゆくことは問題だと指摘している。 受験生はこれまで、気候変動問題や新型コロナ・パンデミックについて、実際に経験もしたし、また高校等での学習の場で考えたこともあったであろう。しかし、食肉や健康であることが個人の幸福・嗜好の問題であったのに社会秩序維持という理由で制約される社会になりつつあるという視点は、あまり考えてこなかったのではないか。社会秩序維持と個人の幸福・嗜好の保障という緊張関係について考えてもらうことが、出題の狙いである。 2 受験生に何を望むか まず、食肉など個人の幸福・嗜好の問題だったものが、社会秩序維持の観点から認められるべきかが問われる時代に、言い換えれば、社会的・政治的に望ましいものについてだけその営みを楽しんでよい自由が保障される時代になってゆくという課題文の論旨を正確に理解し、適切にまとめる力が求められる（読解力）。次に、これまで学んできた知識を総動員して、個人の幸福・嗜好が社会的・政治的に望ましいものであるかという

	観点から制限されることについて、具体例を挙げて論理的・説得的に自分の言葉で表現することが求められる（自説展開力）。
--	--